

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: 61134294 A
(43) Date of publication of application: 21.06.1986

(51) Int. Cl

B41M 5/26

G11B 7/24, G11C 13/04

(21) Application number: 59255301
(22) Date of filing: 03.12.1984

(71) Applicant: HITACHI LTD
(72) Inventor: WATANABE RYUJI
MINEMURA TETSUO
ITO TETSUO
ANDO HISASHI
MAEDA YOSHIHIRA
NAGAI SHOICHI
SHIMIZU SEIKI

(54) INFORMATION RECORDING MEDIUM

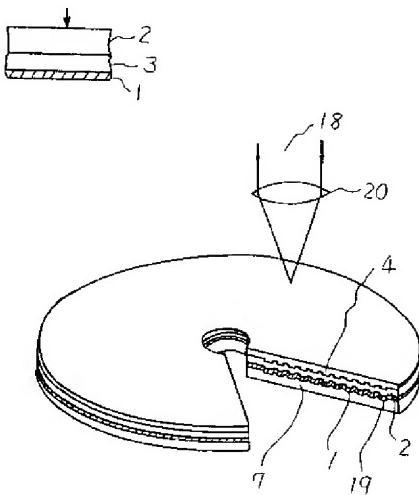
(57) Abstract:

PURPOSE: To obtain an information recording medium having a recording layer with a high energy incident efficiency by providing at least either of an incident photoenergy interference layer and an absorption layer on the photoenergy incident side of a recording layer.

CONSTITUTION: If an absorption layer 3 consisting of a substance absorbing an incident energy is provided on the incident energy side of a recording layer 1, most of the incident energy is absorbed into the absorption layer 3 to be converted to a heat energy, and the absorption layer 3 shows a sudden starting temperature. As a result, recording layer also shows a sudden temperature to the high level. The ideal thickness of the absorption layer 3 is such that allows the reflection factor of an information record retrieval medium (ratio of reflection energy/incident energy) to reach 5W80%. In addition, if a clear and transparent interference layer 2 is provided, the energy reflection factor can be decreased, permitting the temperature of the recording

layer 1 to shoot up to the high level more rapidly. If the recording layer indicates a rapidly climbing temperature, high-speed write operation is performed making it possible to write or erase data with less incident energy. Thus the write or erase sensitivity of the information record retrieval medium becomes high.

COPYRIGHT: (C)1986,JPO&Japio



公開実用 昭和61-1134294

⑨日本国特許庁 (JP)

⑪実用新案出願公開

⑫公開実用新案公報 (U)

昭61-134294

⑬Int.Cl.*

A 24 F 13/02

識別記号

府内整理番号

8114-4B

⑭公開 昭和61年(1986)8月21日

審査請求 未請求 (全 頁)

⑮考案の名称 卷きタバコ用パイプ

⑯実願 昭60-19448

⑰出願 昭60(1985)2月13日

⑱考案者 高雄 隆司 福岡県遠賀郡水巻町大字吉田2439-6

⑲出願人 高雄 隆司 福岡県遠賀郡水巻町大字吉田2439-6

⑳代理人 弁理士 吉村 博文 外2名

明 細 書

1. 考案の名称

巻きタバコ用パイプ

2. 実用新案登録請求の範囲

(1) 一端に吸口を、他端に巻きタバコを挿入する火皿を有するとともに中央内部に前記吸口と火皿とを繋ぐ連通路を有する巻きタバコ用パイプにおいて、前記火皿の台座と開口端とをむすぶ中心線がパイプを載置するための載置面に対し前記火皿の開口端方向に上傾斜する傾角を持つようにパイプ外周面の前記火皿側端部にタバコ転倒防止用突出部を設けたことを特徴とする巻きタバコ用パイプ。

(2) タバコ転倒防止用突出部を側面視、多角筒形状体とした実用新案登録請求の範囲第1項に記載の巻きタバコ用パイプ。

(3) タバコ転倒防止用突出部をパイプ外周面の前記火皿側端部に吸口方向に折曲自在に取りつけた実用新案登録請求の範囲第1項に記載の巻きタ

1070

タバコ用パイプ。

(4) タバコ転倒防止用突出部をパイプ外周面に
摺動自在に取りつけた実用新案登録請求の範囲第
1、2または3項に記載の巻きタバコ用パイプ。

3. 考案の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本考案は巻きタバコ用のパイプに係り、より詳
しくは巻きタバコを挿入しパイプを例えば床面等
に置いた時、床面と巻きタバコの火のついている
先端部分とがある程度距離を持つようにした巻き
タバコ用パイプに関する。

(従来の技術)

従来、紙巻きタバコ等の巻きタバコ用のパイプ
は、一端に吸口を、他端に巻きタバコを挿入する
火皿を有するとともに中央内部に前記吸口と火皿
とを繋ぐ連通路を有し、パイプ外周面が吸口部分
を除いてほぼ同じ大きさ、形状で構成されたもの
が一般的である。

また、その大きさ、形状は紙巻きタバコを挿入

保持でき、側面視が通常、橢円形状、円形状を呈している。

そして、これらの巻きタバコ用パイプには、長さが5cm程度以上ある通常パイプといわれるものと、2~3cm程度の長さよりなるフィルター機能を兼ね備えた所謂フィルターと呼ばれているパイプ等がある。

これらの巻きタバコ用パイプは、何れもタールの除去等を図るという目的を果たすという趣旨で需要者に広く受け入れられている。

(考案が解決しようとする問題点)

しかしながら、上述した従来の巻きタバコ用パイプは、パイプ外周面が吸口部分を除いてほぼ同じ大きさ、形状で構成されているので、巻きタバコを火皿に挿入した状態で覺等の床面に過っておいたような場合、前記タバコの火のついた先端部分と前記床面との距離が近接しているため、その熱により床面を焦がすおそれがあるという問題点がある。

ところで、このような問題点を解決することを

目的とする巻きタバコ用パイプではないが、吸口から火皿にかけて橢円錐形状をしたものがある。

この巻きタバコ用パイプの場合、火皿側が若干その他の部分に比べ大きくなっているので、前述したような問題点を幾分かは解消できるとも考えられる。

しかし、この巻きタバコ用パイプの場合、前述問題点を解決するためには、その長さを相当な長さとしなければならないという問題点があることがわかった。

本考案は以上のような点に鑑みでなしたもので、従来の巻きタバコ用パイプの有していた問題点を解消し、過って巻きタバコに火のついた状態でパイプを床面等に落としたような場合であっても、失火等が生じることがないようにした巻きタバコ用パイプを提供することを目的とするものである。

(問題点を解決するための手段)

上述した目的を達成するための本考案の巻きタバコ用パイプは、一端に吸口を、他端に巻きタバ

コを挿入する火皿を有するとともに中央内部に前記吸口と火皿とを繋ぐ連通路を有する巻きタバコ用パイプにおいて、前記火皿の台座と開口端とを結ぶ中心線がパイプを載置するための載置面に対し前記火皿の開口端方向に上傾斜する傾角を持つようにパイプ外周面の前記火皿側端部にタバコ転倒防止用突出部を設けた構成よりなる。

ここで、吸口とはタバコを吸うための部分をいい、火皿とは巻きタバコを挿入する部分をいい、また、ここでいう巻きタバコ用パイプは、直管式パイプをさすが、他の形状、構成よりなるものであってもよいことは当然である。

そして、タバコ転倒防止用突出部は部分的に突出する突起、あるいは側面視が多角筒形状体、円筒形状体等で構成されていて、通常、パイプ外周面の火皿側端部に一体に形成されている。

しかし、この形状にかぎられるものでなく、例えばタバコ転倒防止用突出部をパイプ外周面に吸口方向に使用後は折り曲げて収納できるようにした構成としても、また、パイプ外周面に摺動自在

に取りつけた構成としてもよい。

また、任意に取り外しができるようにした構成としてもよい。

なお、タバコ転倒防止用突出部による前記傾角としては5～10度の角度が好ましいが、他の角度となるようにしてもよいことは明らかである。

〔作用〕

そして、以上の構成よりなる本考案の巻きタバコ用パイプは、その火皿に巻きタバコを挿入し、火をつけた後、床面に置いたりあるいは過って灰皿より床面に落としたような場合であっても、火のついている巻きタバコの先端部分は床面即ち水平面に対して、一定以上の距離をもつように、上方に傾斜した角度を保つように作用する。

〔実施例〕

つぎに、図面を参照しながら本考案の実施例について説明する。

ここで、第1図は本考案の実施例を示す正面図、第2図は本考案の実施例を示す火皿部分の端面図、第3、4図は本考案の他の実施例を示す正面

図である。

- 実施例 1 -

本実施例の巻きタバコ用パイプは、大略的には従来の巻きタバコ用パイプと同じ形態であって、一端に吸口11を、他端に巻きタバコ13を挿入する火皿12を有するとともに中央内部20に前記吸口11と火皿12とを繋ぐ連通路14を有する構成よりなっている。

そして、この巻きタバコ用パイプにおいて、パイプ外周面18の前記火皿側端部17にタバコ転倒防止用突出部19が、前記火皿12の台座30と開口端31とをむすぶ中心線15がパイプを載置するための載置面(床面)16に対し、前記火皿12の開口端31方向に上傾斜する傾角 α を持つ、すなわち第1図に示すように吸口11部分に対して火皿12部分が載置面16からみて上方に位置するように設られている。

ここで、吸口11とは巻きタバコ13を吸うための部分をいい、火皿12とは巻きタバコ13を挿入する部分をいい、また、ここでいう巻きタバコ用パイ

ブは直管式パイプを示しているが、他の形状、構成よりなるものであってもよいことは当然である。

前記タバコ転倒防止用突出部19は第2図（A）に示すように側面視が六角形状体で形成されていて、その直線部分でパイプを固定するとともに、転倒を防止するようにしている。なお、このタバコ転倒防止用突出部19は第2図（A）に示すような形状に限られるものでなく、例えば第2図（B）に示すように部分的に突出する突起、先端部分を鋭角状に構成した形状、あるいは側面視が円筒形状体その他の構成・形状等で形成したものでもよいことは明らかである。

また、タバコ転倒防止用突出部19をパイプ外周面18に吸口11方向に使用後は折り曲げて収納できるようにした構成としても、また、パイプ外周面18に摺動自在に取りつけた構成としてもよい。

折り曲げることができるようにしたものあっては、パイプ周囲を細くできるので、嵩張ることがなく収納等で不便さを生じない。また、摺動自在

に取りつけたものにあっては、パイプの傾斜角度、すなわち、傾角 α を調整することができる。

なお、前記タバコ転倒防止用突出部19による前記傾角 α は、一般的には5~10度の角度が好ましいが、他の角度となるようにしてもよい。

そして、上述した実施例の巻きタバコ用パイプは、その火皿に巻きタバコ13を挿入し、火をつけた後、床面に置いたりあるいは過って灰皿より床面16に落としたような場合であっても、火のついている巻きタバコ13の先端部分は床面16即ち水平面に対して、一定以上の距離をもつように、上方に向て傾斜した角度 α を保とうに作用する。

- 実施例 2 -

本実施例は前述実施例1において、第3図に示すように、パイプ外周面に摺動冷却体兼重錘21を配設した構成よりなる。

この摺動冷却体兼重錘21は、プラスチック等で形成されたパイプ本体内部を冷却させるとともに、巻きタバコ13を火皿12に挿入した場合、吸口11側に比べてせいき火皿12側が重くなり、前記巻き

タバコ13が下傾斜することも考えられるので、このような点を回避するために吸口11側をある程度重くできるようにするものである。そして、その調整を摺動により行えるようにしてある。

この構成の場合、パイプ内部に冷却によりある程度固化するタールを溜めておくためのタール溜まりを形成するようにした方がより好ましく、また、冷却体としては、例えば熱中性子吸収断面積の小さい金属等が使用できるほか、水等に冷却できるようにした構成としてもよい。

なお、前記摺動冷却体兼重錘21の火皿12側端部に前記タバコ転倒防止用突出部19を設けた構成としてもよい。この場合、実施例1におけるタバコ転倒防止用突出部19は設けても設けなくてもよく、設けた場合は二個所に前記タバコ転倒防止用突出部19を設けた構成になる。

- 実施例 3 -

本実施例は従来の巻きタバコ用パイプと同様の構成よりなるパイプ体25にタバコ転倒防止用突出部19を装着脱自在に設けることができるようにな

た構成よりなる。

すなわち、一端に吸口26を、他端に巻きタバコ13を挿入する火皿27と、その周面29にタバコ転倒防止用突出部19を有するとともに中央内部28に前記吸口26と火皿27とを繋ぐ連通路28を有するタバコ転倒体22をパイプ体25に装着脱自在に配設できるようにした構成よりなるものである。

なお、この構成においてタバコ転倒防止用突出部19を必要としない場合はパイプ体25の火皿12部分に巻きタバコ13を係止用のリングあるいは管体を挿入しておけばよい。タバコ転倒防止用突出部19を装着脱自在はこのような構成に限定されるものでなく他の構成としてもよいことは明らかである。

(考案の効果)

以上の記載より明らかなように、本考案の巻きタバコ用パイプは火皿の中心線が載置面に対して火皿の開口端方向に上傾斜する傾角 α をもち、、火のついている巻きタバコの先端部分は載置面に対して、一定以上の距離をもつようになっている

ので、過って巻きタバコに火のついた状態でパイプを床面等に落としたような場合であっても、失火等が生じることがないようにした巻きタバコ用パイプを提供することができるという効果を奏する。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案の実施例を示す正面図、第2図は本考案の実施例を示す火皿部分の端面図、第3、4図は本考案の他の実施例を示す正面図である。

11: 吸口

12: 火皿

13: 巾きタバコ

14: 連通路

15: 火皿の中心線

16: 載置面

17: 火皿側端部

18: パイプ外周面

19: タバコ転倒防止用突出部

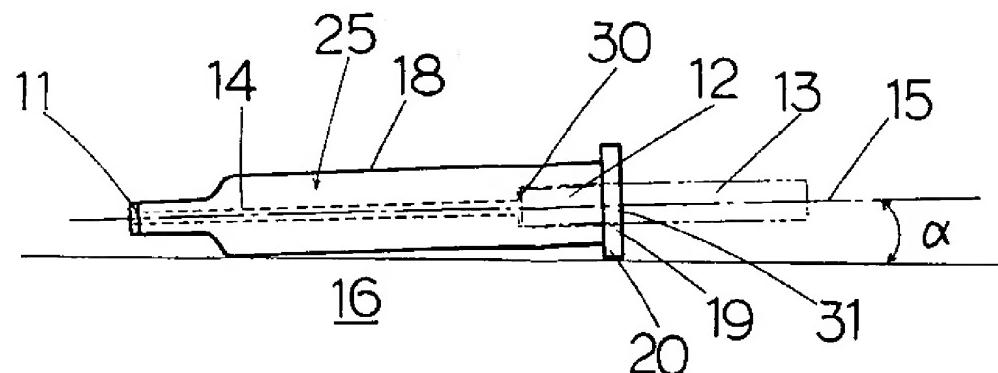
30: 火皿の台座

31: 火皿の開口端

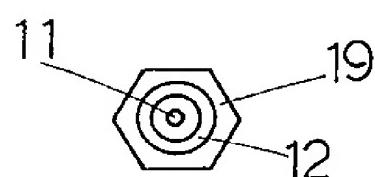
実用新案登録出願人 高雄 隆司

代理人 弁理士 吉村 博文

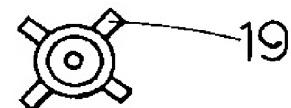
第1図



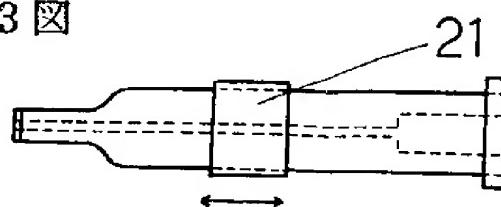
第2図(A)



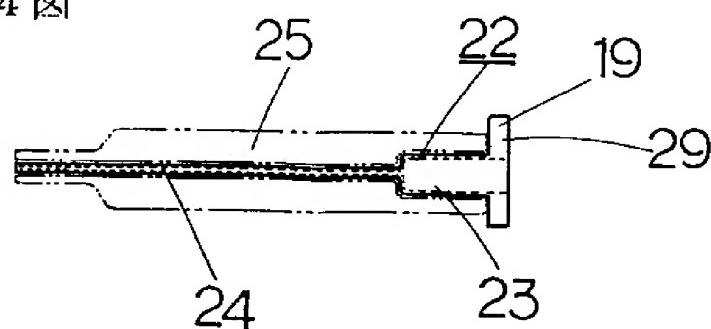
第2図(B)



第3図



第4図



1082

実用新案登録出願人

高雄 隆司 昭和61-134294

代理人 弁理士

吉村 博文
(ほか2名)